

4. 夜久野の文化財

はじめに

夜久野町域には指定・未指定を問わず数多くの文化財や100を超える遺跡が所在している。それらは先人たちが守り伝え、紡いできた歴史そのものである。平成14年度からの『夜久野町史』編纂事業では建造物や美術工芸品のほか、地質や祭礼行事、伝統産業なども詳細に調査がおこなわれ、その成果は『夜久野町史』にまとめられている。

さて、夜久野の数ある文化財のうち国・府もしくは市の文化財に指定・登録されている文化財は44件ある（表1）。内訳は建造物15件（府登録1件、府暫定9件、市指定3件、市重要資料2件）、絵画4件（府暫定2件、市指定2件）、彫刻12件（国指定1件、市指定10件、市重要資料1件）、考古資料1件（市指定）、工芸品1件（市指定）、古文書2件（市指定）、史跡1件（府指定）、無形民俗文化財2件（府指定1件、府登録1件）、有形民俗文化財1件（府暫定）、天然記念物4件（府指定1件、市指定3件）、ふるさと文化財の森1件（国設定）となっている。福知山市の指定・登録文化財件数は令和5年（2023）9月時点で279件であるから、約16%が夜久野町域に所在するということになる。

では、文化財について簡単に解説していこう。番号については表1に基づく。

1. 建造物

1の高倉神社本殿（写真1）は旧日置村の氏神で、現在の本殿建立時の寛文4年（1664）の棟札が残る。特徴としては淡路島から大工が来ていること、中丹地域の近世社寺のなかでは古いこと、七尺間口の大きな隅木入春日造が挙げられる。11の宝篋印塔・六地藏石幢は大油子の喜代見神社一帯にあったと伝えられる清海寺の唯一の遺品とされる。ともに玄武岩製で、宝篋印塔の基礎には、「応永元甲戌（1394）十月日」と「勸進僧 快宥」の紀年銘が見られ、六地藏石幢とともに室町時代初期の様式を示している。12の瑞林寺の宝篋印塔は花崗岩製の無銘塔で、形状より14世紀中頃（鎌倉時代再末期～南北朝時代初期）と推定され、市内で最も古い石造文化財の一つに挙げられる。また、14の瑞林寺山門は福知山城城門を移築したものと伝えられる。明治6年（1873）の廃城令以後、明治10年（1877）頃までに移築されたと考えられるが、福知山城のどの門かは不明である。扉には福知山城城門に共通して使われて



写真1 14：瑞林寺山門（市重要資料）

いる先端が大きく広がる特徴を持つ八双金具が飾り付けられていることから福知山城との関連が想定される。

2. 絵画

16～18の円満院所蔵の絵画はいずれも南北朝時代に遡る絵画の優品である。沙羅双樹のもとで、釈迦が右腕を枕とし、宝台の上で涅槃に入る様を表す16の仏涅槃図（写真2）は釈迦の着衣の截金文様や会衆の着衣に描かれた金泥の文様が精緻であり、当時の京都の絵師により制作されたものと考えられる。また、軸木の墨書からは応永12年（1405）に修理を行ったことやその後も複数回の修理をおこなっていたことがわかる。17の釈迦十六善神像は、中央に釈迦如来坐像と獅子に乗る文殊菩薩、像に乗る普賢菩薩、手前に玄奘三蔵と深沙大将、左右には法涌菩薩と常諦菩薩及び十六善神が描かれる。各尊の整った表現、中間色の多い鮮やかな色彩などが特徴である。

3. 彫刻

20の木造釈迦如来坐像（写真3）は国指定重要文化財に指定されている仏像で、像内腹部の墨書銘文より天仁2年（1109）に「滅罪生善」と「往生極楽」を願って「安心」という人物が造像したことがわかる。ヒノキ材、割矧造、彫眼の像で、平安時代後期の定朝様であるが衣文が多く刻まれる点や脚部上面に鬘をたたんだ円弧上の衣文表現など、この地で制作されたと考えられる技法がみられ

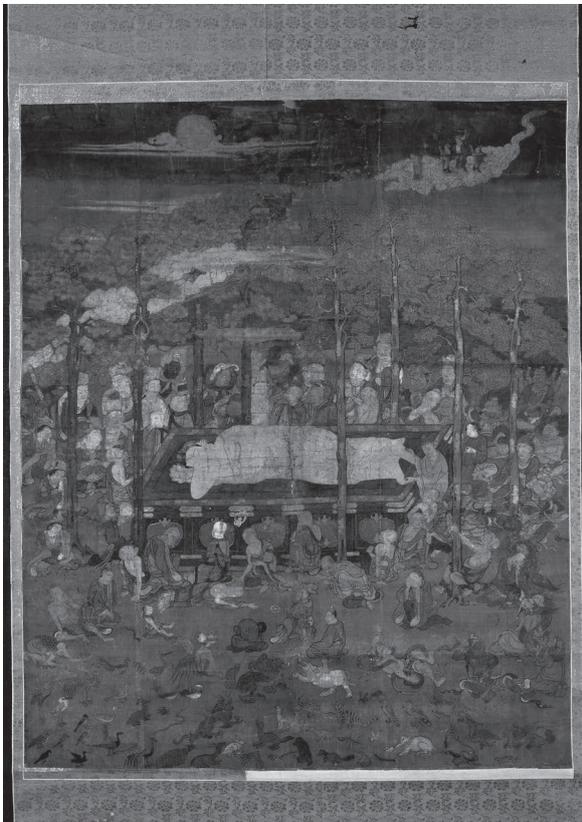


写真2 16：円満院 絹本着色仏涅槃図（府暫定）



写真3 20：宮垣薬師堂 木造釈迦如来坐像（国指定）

表1 夜久野の文化財一覧

種別	No.	名称	所在地	指定別
建造物	1	高倉神社本殿 附棟札1枚	日置	府登録
	2	専福寺本堂	直見	府暫定
	3	専福寺楼門	直見	府暫定
	4	東光寺本堂	直見	府暫定
	5	東光寺楼門	直見	府暫定
	6	東光寺鐘楼	直見	府暫定
	7	本光寺本堂	直見	府暫定
	8	本光寺楼門	直見	府暫定
	9	夜久野郷総社一宮神社本殿	額田	府暫定
	10	夜久野郷総社一宮神社末社蛭子神社本殿	額田	府暫定
	11	喜代見神社 宝篋印塔・六地藏石幢	大油子	市指定
	12	瑞林寺 宝篋印塔	板生	市指定
	13	宝篋印塔	小倉	市指定
	14	瑞林寺山門	板生	市重要
	15	梵字塔	小倉	市重要
絵画	16	円満院 絹本着色仏涅槃図	畑	府暫定
	17	円満院 絹本着色釈迦十六善神像	畑	府暫定
	18	円満院 絹本着色不動明王二童子像	畑	市指定
	19	栗尾自治会 絹本着色方便法身尊像	板生	市指定
彫刻	20	宮垣薬師堂 木造釈迦如来坐像	直見	国指定
	21	瑞光寺 木造阿弥陀如来立像、観音菩薩立像、勢至菩薩立像	千原	市指定
	22	柿本観音堂 木造千手観音立像、不動明王立像、毘沙門天立像	畑	市指定
	23	桑村薬師堂 木造薬師如来坐像	畑	市指定
	24	大智寺 仏像群	今西中	市指定
	25	大智寺 木造天部立像	今西中	市指定
	26	大智寺 木造阿弥陀如来坐像	今西中	市指定
	27	旧大日寺 木造観音菩薩立像	大油子	市指定
	28	清太院 木造釈迦如来坐像	直見	市指定
	29	山中観音堂 木造千手観音立像	直見	市指定
	30	羽白毘沙門堂 銅造天部立像	板生	市指定
	31	柿本観音堂 青面金剛像	柿本	市重要
考古資料	32	矢谷経塚出土遺物	平野	市指定
工芸品	33	熊野神社 石造狛犬	大油子	市指定
古文書	34	宗憲入道肖像画 附夜久家系譜	高内	市指定
	35	妙龍寺 赤井忠家徳政令免状	額田	市指定
史跡	36	長者森古墳	高内	府指定
無形民俗	37	丹波の漆かき	今西中	府指定
	38	額田のダシ行事	額田	府登録
有形民俗	39	丹波夜久野の漆掻き用具	平野	府暫定
天然記念物	40	夜久野玄武岩柱状節理	小倉	府指定
	41	柿本観音堂のタブノキ	畑	市指定
	42	柿本観音堂のタブノキ	井田	市指定
	43	夜久野町内採取化石	平野	市指定
ふるさと文化財の森	44	夜久野 丹波漆林	夜久野町	国設定

ることも特徴である。23の桑村地区の木造薬師如来坐像は全体に穏やかな作風で、平安時代後期の制作とみられる。頭部上方で先を尖らせる切りつけの螺髻や、丸顔に大きな弧を描く眉や眼が特徴的である。24～26の大智寺仏像群は釈迦如来坐像1軀、地藏菩薩立像2軀、菩薩立像5軀、天部立像2軀、兜跋毘沙門天立像1軀、仏形立像1軀の12軀からなる破損仏像群（24）と、ヒノキの一材より彫り出された京都誓願寺毘沙門天像を思わせる迫力ある木造天部立像（25）、体部・脚部の着衣やその衣紋線から平安時代とみられる半丈六の阿弥陀如来像（26）からなる。いずれも平安時代後期の造像と考えられる。また、旧大日寺の観音菩薩立像（27）は、10世紀に遡るとみられ、夜久野最古の仏像である。

4. 考古資料

32の矢谷経塚出土遺物（写真4）は、板生今西の丘陵裾で発見された須恵器壺と、中に入っていた鏡1面と円板2面の一括品である。須恵器は高さ約27cm、口径約15cmの東播系の須恵器で自然釉がかかり丸底を呈している。鏡は直径10.2cmの銅製の和鏡で、文様は松藤双雀文である。その鏡を挟むように収められていた木製円板は、直径10cm、厚さ3～4mmの杉板で、応永年間の年号や悪霊調伏・神罰死などの文字が2面の両面に墨書されている。埋納の意図が判明する貴重な文化財である。

5. 工芸品

33の石造狛犬（写真5）は阿形30.9cm、呷形30.7cmの角礫質凝灰岩製で木造の和様狛犬系丹後系狛犬の系統に属する室町時代末期頃の制作と推定される。市内でも突出した古様を示す貴重な狛犬である。

6. 古文書

34は夜久主計頭の長男である宗憲入道の肖像画（写真6）で江戸時代の作品とみられる。35は妙龍寺に伝わる古文書群の中の一通で、赤井忠家が酒屋和泉に臨時で出される課役や徳政令を免状する、と伝えた文書である。当時の領主達が経済力を握る「酒屋」に対し、課役や徳政令を免除するなどの便宜を図って特別の結びつきを持っていたことを示す貴重な文化財である。



写真4 32：矢谷経塚出土遺物 木製円板（市指定）

る、と伝えた文書である。当時の領主達が経済力を握る「酒屋」に対し、課役や徳政令を免除するなどの便宜を図って特別の結びつきを持っていたことを示す貴重な文化財である。

7. 史跡

36の長者森古墳は6世紀半には築造された直径23m、高さ4.7mの円墳である。玄武岩を用いた両袖式の横穴式石室は羨道幅1.1m、長さ6.7m、玄室幅2.3m、長さ5.5mを測り京都府北部最

大級である。須恵器のほか鉄刀や耳環が確認されており、但馬・丹後・播磨・丹波のルートが交わる交通の要衝に築かれた古墳である。

8. 無形民俗文化財・有形民俗文化財

37・39はかつての伝統産業であった丹波漆にかかわる技術伝承と漆掻きに必要な用具（写真7）である。現在はNPO法人丹波漆が中心となって漆掻き技術の伝承のための後進育成に尽力されている。また39の漆掻き用具は実際に夜久野在住の漆掻き職人が使用し、保管されていた道具一式である。保存状態も非常に良好で、漆掻きに欠かせない用具類の貴重な一括資料である。38の額田のダシ行事は額田地区の氏神一宮神社の祭礼行事で、上ダシ、下ダシ及び御神木の巡行からなる。上ダシは、ダンジリとも呼ばれる山車で、上下二段の構造になっている。上段は回転するようになっているため、その上段に作り物の人形を飾り、下段にはそれを囃す囃子方が乗り込んで宵宮と本祭に街の本通りを巡行する。下ダシは一種の置山で、毎年氏子五ヶ町で各1基づつ、趣向を凝らしたものが作られる。農作物や木の実など秋の幸を用いて昔話や伝説の一情景を表現する作り物（野菜ダシ）が特色である。



写真5 34：石造狛犬（市指定）

9. 天然記念物

夜久野は地質に恵まれた場所でもあり、40の夜久野玄武岩柱状節理（写真8）と43の夜久野町内採取化石（写真9）はその代表といえる。夜久野には京都府内唯一の火山・宝山（田倉山）があり、今から38万年～30万年前までに少なくとも3回噴火していることが分かっている。夜久野玄武岩柱状節理は約38万年前の最初の噴火で流れ出た小倉溶岩が冷えて固まったもので、溶岩が冷えて固まるときにできる冷却割れ目が柱状節理である。夜久野の台地の形成過程がうかがえる壮



写真6 35：宗憲入道肖像画（市指定）



写真7 39：漆掻き用具（府暫定）

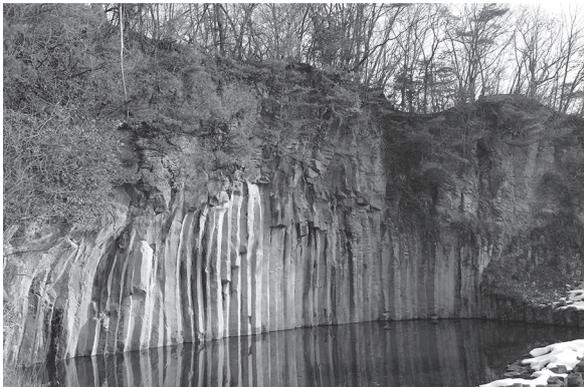


写真8 40：夜久野玄武岩柱状節理（府指定）



写真9 43：アンモナイト
（ヤクノセラス・ヌカタエンゼ）（市指定）

大な景観を残す。また、夜久野は化石が残りやすい泥質の地層が分布しているため化石の産出地としても知られる。夜久野町化石・郷土資料館に展示されている化石の多くは地元の方によって収集・整理されたもので、そのうちの夜久野町産出の化石150点が市指定文化財となっている。新種のアンモナイトであるヤクノセラス・ヌカタエンゼや三角貝のミネトリゴニア・ヘキエンシスなど「夜久野」や「額田」、「日置」などの夜久野の地名が付いた化石も含まれており、この化石の年代である約2億5000万年前は下夜久野が海底であったことを示す重要な資料である。

おわりに

このように夜久野には多種多様な文化財が大切に守り伝えられてきた。これらは地質時代から現在に至るまで積み重ねられてきた夜久野の歴史の深さを物語る。紙面の関係上すべてを紹介することはできなかったが、指定文化財に限らず、夜久野に残る数多くの文化財、そのすべてが宝物であることは間違いない。（鷲田紀子）

参考文献

- 夜久野町史編集委員会 2005『夜久野町史』第一巻
（自然科学・民俗編）夜久野町
- 夜久野町史編集委員会 2006『夜久野町史』第二巻
（資料編）福知山市
- 福知山市教育委員会 2011『文化財が語る福知山の歴史』
福知山市指定文化財図録Ⅱ（補遺版）

編集後記

本書の執筆・編集には、筆者含めた学生も少なからず携わった。思えば初めて末窯跡群の踏査に参加した時は、山の中で右も左もわからず先輩の背中にひっついていき、落ちている土器に夢中になっていた。後輩を先導する立場になると手元の地図と睨めっこしつつ、採取した土器の記録や、整理作業の日程を考えた。夜久野では先輩方の歩みも蓄積しており、私自身も他分野の先生方との合同踏査や資料の分析、成果報告会の開催などの得難い経験をした。その成果をこうして1冊にまとめ上げる段階に関わることができたことは感慨深い。多くの人と関わり、貴重な資料に触れる機会を得たことに感謝したい。(も)

表紙・裏表紙写真

上左：夜久野末窯跡群の調査風景

上中：長者森古墳

上右：ボーリング調査風景

下：夜久野末窯跡群の遠景（ナゲ地区）

(以上、菱田撮影)

裏表紙：小倉田古墳出土双龍環頭大刀

(栗山雅夫氏撮影)



京都府立大学文化遺産叢書 第28集

夜久野の後期古墳と末窯跡群

編集 菱田 哲郎 (京都府立大学文学部教授)
諫早 直人 (京都府立大学文学部准教授)

発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月29日

印刷 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2